

協力して砂の像を制作する学生たち



砂の彫刻 浜辺で思い思い

八戸

八戸市の八戸学院大学短期大学部（杉山幸子学長）は24日、同市の白浜海岸で砂の像を作る「砂浜彫刻実習」を行った。幼児保育学科の1、2年生や八戸学院光星高校の生徒計約250人が参加、仲間と協力しながら

に据えた。

この日はあいにくの曇り空。学生たちは14班に分かれ、スコップで砂を掘り起こして海水で固めながら造形した。約2時間かけて四つ葉のクローバーや、ペンギンの親子などの砂像を完成させた。

「これから自分が進ん

八学短大生ら制作実習

作品を作り上げた。

でいく道」をイメージし

実習は、幼児教育で表現力を養うことに役立つとされる砂遊びを体感しながら、学生同士の交流を深めようと2006年から実施している。今年からはSDGs（持続可能な開発目標）の実現について考える機会にしておつと、「続」をテーマ

た砂像を作った同短大2年の高橋花純さん（19）と滝田明華さん（20）は「思っていたよりきれいにできた。1年生と交流できて楽しかった」と話した。（相澤賢斉）

奥T画
東NE動

